

【展示報告】

大学史特集展示「米田吉盛展」および

参考展示「写真でたどる神大90年」について

大坪潤子

はじめに

神奈川大学資料編纂室では、二〇〇五（平成十七）年から二〇一二（平成二十四）年まで横浜キャンパスの図書館展示コーナーにおいて、また二〇一五（平成二十七年）からは同三号館の展示ホールにおいて、毎年一回、大学史に関わるテーマで企画展示をおこなってきた。

二〇一八（平成三十）年における企画展示（「特集展示」）は、それまでとはやや趣を異にするものだった。大学創立九十周年にあたり、創立者米田吉盛の出身地である愛媛県の内子町で二〇一七年秋から開催された「米田吉盛展」を、再構成して展示したのである。またこれと同時に、参考展示としてパネルによる「写真でたどる神大90年」を開催した。本稿ではその

概要を報告する。

一、特集展示「米田吉盛展」

二〇一七年十一月から翌二月にかけて、愛媛県喜多郡内子町で、「米田吉盛展」が開催された（詳細は本紀要三号一一頁「事業協力報告」参照）。同展実行委員会の協力依頼により、資料編纂室は二〇一五年から展示内容の提案および展示に携わった。内子町での「米田吉盛展」の展示は、基本的には三号館展示ホール内「創立者・神奈川大学史展示室」の常設展示に沿う構成をとりながら、米田吉盛個人への焦点を深め、子息の米田有氏所蔵の叙勲関連等資料や内子町所蔵の公文書類が初めて展示され、近年の内子町論田地区での生誕地整備等の活動がパネルや映像で紹介された。

単なる資料の貸出しではなく構成や展示にも携わる

事業協力は資料編纂室として初めてのことで、内子町の実行委員各位や事務局との連携が不可欠となった。これらを通して我々が得たものは予想以上に大きく、また、学内からもこの展示を大学でも行つてはとの声があがった。

そこで、内子町側の快諾を得て、創立九十周年となる二〇一八年の大学史特集展示は「ふるさと うちこからの里帰り展」と冠して、内子での展示を再構成した「米田吉盛展」を開催することとなった。開催期間は、例年どおりホームカミングデーを目前にした十月五日（金）から十二月二十五日（火）まで、場所は、例年は「創立者・神奈川大学史展示室」の一角および三号館展示ホール可動壁外側（吹抜け側）であったが、今回はホームカミングデー（十月七日）のイベント導線に合わせて、一号館側の可動壁外側にパネルを吊り下げ展示、実物資料（大型ケース二台、日本常民文化研究所より借用）のみを展示室内入口付近に展示した（ホームカミングデー当日はパネル付近にケース設置）。物理的制約から、実物資料の展示数は内子でのものより縮小し（展示資料一覧参照）、米田吉盛の生涯を辿るパネルは、最新の調査結果を加えて若干改編し

た。展示ホールの常設展示では、米田吉盛個人に関する資料や紹介がやや弱かったこと、内子町でもそうであったが、米田吉盛その人を直接知る方が少なくなっていることから、先ずは外見——どのような体格の持ち主であったのか、着用していたコートや下駄等、極力直截的に感じとれるような資料を優先した。ただしそもそも米田吉盛遺愛の品や書簡といった資料はそう多く大学で所蔵しておらず、現状ではこれがほぼ精一杯といったところである。人物像を深めるためには、聞き書きを含めた資料の収集と読み込みが急がれる。その意味でも内子町との連携は意義深いものであり、展示準備で訪れた際にもいくつかの貴重な証言や写真に接することができた。

なお、特集展示中のホームカミングデーでは内子町の物産紹介と販売がおこなわれ、愛媛県のマスコットキャラクター「みきゃん」も登場し好評であった。展示に限らない内子町関係者のご協力に感謝申し上げると共に、今後の交流の継続に期待したい。

二、参考展示「写真でたどる神大90年」

三号館の吹抜けに面した展示ホール壁面は、前回ま

で特集展示の一部としてパネルを展示していた。今回は特集展示のパネルを一号館側としたため、吹抜け面は「参考展示」として一九二八（昭和三）年の創立から現在にいたる大学の歴史を十年ごとに区切り、各時代の特徴を示す写真をA1パネル一枚あたり六、七点ずつ配した。それぞれキャンパスの変化が解る写真を必ず入れ込んだ上で、課外活動も含めた学生生活の移り変わりを示した。解説は最小限に留め、写真の情報を各人が読みとり楽しめるものとしたつもりである。

十枚のパネルの内最後の一枚は全面にミラーシートを貼り、「～現在、そして未来へ～」のタイトルを付けた。そこに映った各人のこれからの十年がどのようなものになるか、どのようなものにしていくか、立ち止まって考えてもらおうというささやかな試みである。

おわりに

今回の会期中は展示ケース改良工事のため常設展示資料をケース十三台ごと撤去する必要がある、当初は空いたスペースにパネル等をイーゼルに架けて展示する予定であった。しかし前述のように展示室外側を主に利用することに変更したため、室内の展示内容が不

十分になることが懸念されたが、元々壁面にもパネル等による展示構成がされており、その前側に置かれたケースと資料が撤去されても一通りの展示ストーリーが成立し、不自然さがないことが判った。展示位置を工夫すれば、今後、壁面の常設展示+前面ケース内での特集展示スペース拡大、という可能性が見えた。

また、三号館の吹抜け側と二号館側双方にパネルを配したことにより、通行やフリースペース（一号館側）利用の「ついで」に学生達が目にする機会が増えたはずである。ここから大学史への興味が生まれればと思う。

企画や手法について、現況でも取組める工夫や新たな可能性を改めて考えさせられる展示となった。



特集展示の一部
（一号館側壁面）

※なお、特集展示のパネルおよび参考展示は、2019年4月まで展示を延長中である。

表1・展示資料一覧

大学史特集展示 米田吉盛展 展示資料一覧		
ケース／パネル番号	資料名	作成・使用年代
A	横浜専門学校復興、大学昇格に伴う資金援助の挨拶状	1947
A	名刺（『厚生政務次官米田吉盛』）	1957～1958
A	「グロテスクな書庫」『富岡の家』	1960
A	履歴書（米田吉盛）	1966か
A	礼状	1979か
A	原稿「新図書館竣工を祝す」	1980
A	神奈川大学創立80周年記念事業一創業者 米田吉盛記念公園竣工一	2007
A	米田吉盛展実施報告書	2018
B	コート（米田吉盛着用）	不明
B	下駄（米田吉盛使用）	不明
B	和合友愛 品位礼節（米田吉盛揮書）	不明
B	釣竿（米田吉盛使用）	不明（退職後）
パネル A01	展覧会タイトル	
パネル A02	01 ごあいさつ	
パネル A03	02 生い立ち 修学時代－Ⅰ	
パネル A04	03 生い立ち 修学時代－Ⅱ	
パネル A05	04 生い立ち 修学時代－Ⅲ	
パネル A06	05 教育者への道 横浜専門学校を創立	
パネル A07	06 教育者への道 地方試験制度と給費生制度	
パネル A08	（横浜専門学校学生募集ポスター）	
パネル A09	07 教育者への道 協力者たち	
パネル A10	08 総合専門学校への取り組み	
パネル A11	09 戦時下の横浜専門学校	
パネル A12	10 「神奈川大学」の誕生	
パネル A13	11 神奈川大学の発展をめざして	
パネル A14	12 政治家としての活動－Ⅰ	
パネル A15	13 政治家としての活動－Ⅱ	
パネル A16	14 晩年の米田吉盛	
パネル A17	15 きずな公園の開設	
パネル A18	16 米田吉盛の胸像	
パネル A19	17 内子町 論田自治会の取り組み	
パネル A20	18 米田吉盛年譜	
パネル A21	（「内子町造り」の提言）	